

会議録

会議の名称	第2回西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成25年11月27日(水曜日) 午後2時から4時まで
開催場所	第1・2講座室 (エコプラザ西東京)
出席者	委員：山谷会長、一方井副会長、福田委員、石井委員、笠原委員、内藤委員、利光委員、草野委員、青木委員、池田委員、高辻委員、木内委員 事務局：湊部長、小関課長、遠藤係長、都築主査、小路口主事
議題	議題1 平成26年度の取組について 議題2 その他
会議資料の名称	資料1 第1回会議録 資料2 調査集計票
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

発言内容等

1 開会の挨拶

2 会議録の確認

第1回会議録（資料1）について承認された。

3 議題

各委員より事前提出された調査票を集約した平成26年度の取り組み（資料2）をもとに意見交換を行った。

（委員からの主な意見）

- ・各委員が考えた取組には様々な対策があって興味深い。
- ・この調査票にある項目を具体化して、ごみの減量について考えるのが私たち審議会の役割だと感じた。
- ・不燃ごみの削減がごみ減量の鍵を握っているが、対策はなかなか難しい。
- ・家の中にある不用品を整理は、ごみの増量につながるというジレンマがある。
- ・ごみ減量について、具体的な行動・数値目標を設定して取り組んだ方が良い。
- ・硬質プラスチックの資源化について、市民に浸透させるのは難しいと思う。
- ・有料化によりごみは随分減量された。ここから更に減らすのは難しい面もある。
- ・資源の品目を増やせばごみは確実に減る。しかしコストはかかる。
- ・西東京市は人口流動が激しいのでゴミ出しルールの周知徹底が大切
- ・若年層や忙しい人向けに、ごみアプリでの意識啓発や24時間受付の拠点回収制などを推進してはどうか。
- ・地域のつながりが少ないように感じている。若い人の関心は低く分別がされない。ごみ分別について話し合い、地域のつながりをつくる仕組みがあると良い。
- ・ごみ問題について、若い世代の人とも一緒に考えたい。

・以前住んでいたスイスは住民意識が高かった。西東京市でも意識付けが大切だと思う。具体的には、受け身ではなく能動的・自発的に捨てるシステム。自分からエコプラザ等にごみを捨てに行くシステム。ペットボトルなど買ったお店に戻すシステム。こうした意識改革が重要である。

・いつでも出せる拠点があると若い人には良い。

・レジ袋について、有料化が進んだこともあり、辞退率は76%まで高まった。行政も条例化などで広域的に取り組むか、法制化されればレジ袋の削減は更に加速する。

・他の自治体や諸外国の取り組みでいいものがあれば積極的に導入してみてもどうか。

・油や金属ごみ等、西東京にある良いサービスに加えて新たな資源ごみ分別（生ごみ単体、布団や傘のリユース）や新機軸のアイデアを実行してはどうか。

・事業者の立場から、過剰包装やレジ袋の削減は大賛成である。

・事業系ごみを減らすための具体策や啓発活動に早く取り組んでほしい。

・事業者と協力して、トレイ返却、レジ袋や過剰包装の削減等を進めてほしい。

・事業系ごみ削減の取組に当たっては、事業系ごみの組成分析から着手すべきだ。

・事業系ごみの古紙を集団回収化している先進自治体がある。参考にしてほしい。

4 その他（事務局より）

平成26年度の取組（資料2）に掲げられた内容について、取組可能な項目から着手するとともに、その他の項目についても平成27年度以降の課題としたい。

5 閉会